

令和7年度 女川高等学園 の研究概要 ～令和8年1月末現在～

運営委員氏名 (千葉 誠治)

研究テーマ	「社会的・職業的に自立する力」の育成を目指して (2年目/3年計画) ～キャリア・パスポートのポートフォリオの整備を通して～
研究目標	一般就労を目指す軽い知的障害のある生徒の通う本校の場合、複数の教職員で複数の生徒の指導に当たる。そこで、キャリア・パスポートを整備することによって、生徒個人の共通理解だけでなく、学校のキャリア教育について全教職員で共通理解を図り、一つの方向性を持って指導に当たることでより良いキャリア教育の展開を目指す。
研究内容・方法	昨年度に得られた本校の社会的・職業的に自立に関する共通理解の下、2年目の今年度は、ポートフォリオの段階的、体系的な整備を行う。一般就労をした後の職業生活や家庭生活をしていく上で必要なスキルを充実させることが重要で、本校では、全学年の寄宿舎生活と共に、学校での教育の中で、社会的・職業的自立を目指している。寄宿舎では今までに「みちしるべ」というポートフォリオを充実させてきたので、これを再確認することにした。学校ではこれまでに取り組んできた様々な教育活動の中から、年に2回の現場実習に焦点を当て、生徒にとって重要である部分を取り上げ、キャリア・パスポートのポートフォリオとして、各学年での成長段階等を踏まえたうえで改善できる部分を改善し、生徒全員が一貫性をもって振り返りから見直しを持てるようなものを整備することにした。
研究の概要	昨年度に得られたものとして、本校では一般就労を目指すという共通理解があった。そこで、いろいろな学習時にも現場実習を取り上げながら指導に当たっていること、定期的に取り組んでいることなどを考慮し、現場実習に絞っていくことにした。中でも、実習時の反省から良かった点や課題となる点を明確にして、改善点や改善方法を考えていくという現場実習の事後指導に焦点を当てることにした。 ＜成果＞ 既存の振り返りのプリントを基に、1年生には取り組みやすく改善し、2・3年生では文言の変更等を行った。全学年を通して段階的に取り組むことで、生徒の自己理解と成長を促進する狙いで整備することができた。自己評価と客観的評価を比較し、自身の強み・弱みを把握できた。 ＜課題＞ 記入する際に教師と対話を行うことで生徒全員がより充実した内容になると考える。対話の場の確保や教師のスキル向上について、今後取り組んでいきたい。 寄宿舎ではすでに運用しているので、あらためて確認している。

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。

<成果>1年生向けには最近の入学生の傾向を考慮し、**取り組みやすい**振り返りシートに改善されました。2・3年生では文言の変更等」を行い、3学年を通して**段階的に**取り組むことで、生徒の自己理解と成長を促進する狙いがあります。自己評価シートは、事業所の評価と比較する**比較表**を取り入れることで、客観的な視点、将来の就職先の視点からも自身の強み・弱みを把握できるようにしました。また、社会的自立に必要なスキルに関する項目を設けたことで、将来に役立つスキルの習得を促し、生徒の成長を促します。

<課題>生徒へ記入をさせるとき今後の入学生の实態によっては記入させるのが難しい場合が考えられる。その場合も想定した教員との対話の場の確保が必要となってくる。

⚠ 今後の課題

⌚ 負担軽減と継続性の確保

振り返りや自己評価が、ルーティンワークとして形骸化しないよう、**記入の手間を軽減**し、生徒や支援者の負担を考慮した継続的な運用が課題です。振り返りシートは目的を曖昧にすると、記述が感想で終わってしまい、学びの蓄積につながらない可能性があります。

🎯 評価項目と基準の明確化

振り返りおよび自己評価の項目や基準が曖昧だと、適切な評価が難しくなるため、**明確な評価項目と基準の設定**が必要です。特に、数値化しにくい業務や行動については、達成条件を明確にすることが求められます。

🗣️ フィードバックの質の向上

自己評価と他者評価のギャップを埋め、生徒の成長を促すためには、上司や教員による**フィードバックの質**が重要になります。具体的な事例やデータに基づいた、バランスの取れたフィードバックが求められます。

寄宿舎では既に運用しており、今回の改善内容を改めて確認することで、より効果的な運用と定着が期待されます。